

中国空軍 S-35 の要員訓練が第 2 段階に入る

漢和防務評論 20170829(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国空軍 SU-35 の要員訓練は、第一段階はロシアで行い、次の段階以降は中国本土で行われるようです。

ロシアパイロットの中国パイロットに対する評価は極めて良好で、優れているとのことです。

今までのスホーイ戦闘機の導入と異なるところは、SU-35 の支援整備をロシアが丸抱えすることです。

しかし中国空軍にとって、全部ブラックボックスでは戦力化できるのか、他国ながら心配に？なります。中国人のことですから、そうは言ってもいつも間にか国産部品を使ってコピー機を製作するのではないのでしょうか。

このような形態になったのは、ロシア航空工業界の反対とプーチン大統領の対中戦略の歩み寄りの結果であると思います。

KDR モスクワ YURI BASKOV 特電：

ロシア軍事工業界の権威筋は **KDR** に対し次のように述べた：モスクワ付近の **ZHUKOVSKI** 航空基地で行われていた中国空軍 **SU-35** のパイロット及び整備支援要員に対する第 1 段階の訓練はすでに終了した。次の段階は、2017 年に中国本土で行われ、ロシアのパイロットが中国空軍の **SU-35** パイロットの訓練を支援する。

ロシアの首席教官パイロットでありロシア英雄でもある **SERGEY BOGDAN** が中国でパイロットの訓練を支援する、と。

訓練は主として地上シミュレーターを使用する。中国空軍パイロットの技術レベルをどのように評価するか？周知の通り、航空兵第 2 師団（広東省湛江市遂溪）が第 2 グループの **SU-35** を受領することになる。消息筋：ロシア教官パイロットの中国空軍パイロットに対する評価：彼らは相当優れている。中国の **SU-35** パイロット要員は一つの師団から選抜されるのではなく、空軍全体の中から最も優秀なパイロットが選ばれる。彼らはよく勉強している。第 1 段階の **SU-35** シミュレーターはロシアが提供したものである、と。

なぜ **SU-35** を航空兵第 2 師団に配備したのか？ロシア空軍の戦術訓練専門家は、主として南シナ海に対処するためである、と認識していた。

KDR：**SU-35** を航空兵第 2 師団に配備する目的は、戦時、**SU-35** をバシー海峡を通り台湾東岸に進出させ、同空域の制空権を獲得させるためである、と考える。**SU-35** を航空兵第 2 師団に配備する状況から、中国空軍は **SU-35** の空戦性能をうまく利用し、制空を主に、対地、対艦を従として使う、と **KDR** は考える。このほか、**SU-35** の対中輸出が過去の **SU-30MKK** や **SU-27SK** の対中輸出と大きく異なる点は、整備支援方式が変化したことである。消息筋は次のように述

べた：保証期間は1年である。1年間はロシアの整備支援要員が中国に滞在して随時問題処理に当たる。保証期間後は、中国のSU-35に如何なる技術的問題が発生してもSUKHOI社が解決する。このようにロシアはSU-35の品質に全責任を負うことになる。

また消息筋は：SU-30MKKの場合は、保証期間が過ぎたあと、ウクライナが中国が修理する部品の一部を支援した。しかも保証期間内であっても一部の部品がウクライナ製であったため、中国側はウクライナの技術者を招請しこれらの部品に対する技術支援を求めた。ロシアはこれに対して責任は負わなかった。しかし、今回のSU-35の輸出については、全てのサブシステムについてロシアが責任をもって整備する。”SU-35は全てデジタル化された新型機である。ロシア以外の国家に修理を許可しない、ロシア以外に修理技術は持っていない。したがってロシアだけが最後まで責任を持つことができる”と。消息筋はこのように述べた。

このことは、たとえSU-35がロシア以外で生産された部品を採用したとしても、最終的な修理責任はロシアが負うことを意味する。

以上